

令和7年度入学式 おめでとう

春は名のみの肌寒い4月2日、令和7年度の入学式が本学体育館で行われ、329人（国際文化学科128人、経営学科118人、情報システム学科83人）の新生が、新たな大学生活の第一歩を踏み出しました。

式典では、緊張した表情の新生が1人ずつ名前を呼ばれて起立し、越智敏夫学長が式辞を述べました。越智学長は「大学4年間はやり直しがききません」と述べ、15世紀の政治家思想家マキャベリの言葉を引きながら、大学での時間の過ごし方について「何が起きてても他人のせいにはできないことを理解し対応する能力を身に付けられ、楽しい時間になるでしょう」と呼び掛けました。

続いて在学生代表として学友会長の国際文化学科・中原佑那さんが「多くの先輩たちが

夢が膨らむ329人
ようこそ みずき野へ

皆さんと会えるのを楽しみにしていました。今はさまざまな不安を抱えているでしょうが、この大学を最大限、自らの学びと成長に活かしてください」と歓迎の言葉を述べました。

海外派遣留学で提携するアメリカのセントラル・ミズーリ大学をはじめ、カナダ、中国、韓国、ラトビアの5大学から、留学への参加を呼び掛けるお祝いビデオメッセージも披露されました。

最後に新生代表の国際文化学科・小林紗也さんが「新たな環境の中で、出会ったことのない人々と過ごす日々は、私たちが人間的に成長させてくれるはず。常に向上心を持ち謙虚さを忘れず、成長し続けることを誓います」と抱負を述べました。

入学式を終えたあと新生は、2日から4日間のガイダンスを受け、新生交流会やクラブ・サークル紹介に臨み、7日から始まった授業で希望に燃えるキャンパスライフをスタートさせました。



CONTENTS

1~4面

令和7年度入学式特集
学長式辞
新生代表・私の抱負
在学生代表・歓迎のことば

4・5面

フェアトレード大学認定記念事業
巻高校と連携協定
国際化・情報化見据えた授業展開
新潟市里湯ガイド
澤口ゼミ生3人に認定証授与
学内合同企業説明会

6・7面

派遣留学報告
5カ国へ28人が参加

8・9面

教員の活動

8~12面

令和6年度卒業式特集
学長式辞・理事長祝辞・卒業生答辞
退職教員あいさつ
卒業にあたって
29人にJABEE修了証書授与
特別表彰

令和7年度

第32回

入学式

学長式辞



新潟国際情報大学
学長 越智 敏夫

の後半、記者の方が僕自身のことを聞いてきたんですね。「人生、やりなおしがきくとすれば、大学1年生のころの自分に何をアドバイスしたいですか」という質問でした。

これを聞いてかなり悩んだんですが、悩んでいるうちにだんだん腹が立ってきました。別にその記者の方を批判するつもりはないんですが、大げさにいうとそこで語られる世界観のようなものがなんとなく不快だった

者の方を批判するつもりはないんですが、大げさにいうとそこで語られる世界観のようなものがなんとなく不快だった

た。

人生はやり直しがきかないというのは当然のことなんですが、もし戻ることができたらという架空の話だとしても、強く絶対的な自信をもっているのは、もし戻ったとしても僕はまた過去と同じことをするだろうということです。

過去の自分と同じようにいたら生きるはずです。適当にさぼって適当に勉強して。細かいことを考えると怖いですが、おそらくは今いっしょに生活している人間と同じような人間と結婚して今と同じような人生を送っているはずですよ。

そこで考えたいのは時間とはどういうものであつて、それとどうつきあうべきかということです。そういうときに思い

ギリシャ神話のカイロスという神様です。彼には前髪しかないんです。これはどういうことかという「カイロスが近づいてきたときに前髪をつかんで捕まえる。去っていくカイロスの後ろ頭には髪の毛がないから捕まえないぞ」ということです。

こうしたことについてあのマキャベリは『君主論』のなかでローマ神話に出てくるフォルトゥナという女神を使って、もう少し踏み込んで説明しています。彼によると時間の流れはフォルトゥナのよう気まぐれだけれど、だからこそ、その気まぐれさを理解して対応する能力を持つて、と。その能力のことをマキャベリはヴィルトゥと呼んだんですが、このフォルトゥナとヴィルトゥという単語が今では日本語で「幸運」と「美德」と訳されるといことは、時間とは何かを考える

とき、とても大事なことを示していると思います。

大学はやり直しできない4年間

何を示していると思います。

新入生のみなさん、入学、おめでとうございます。
本来ならここで大学とは何かというようなことをお話ししたほうがいいのかもしれません。しかしそういうことを抽象的に話してもつまらないでしょうし、もう少し違うことをお話ししたいと思います。大学での時間の過ごし方についてです。

先日、ある雑誌のインタビューを受けました。最初は大学のカリキュラムのことを話していたのですが、インタビュー

んですね。つまり「人生、やり直しがきくとすれば」という前提そのものが許せなかったんでしょう。それでどうもそういう考え方は特に大学という空間とは馴染（なじ）まないはずだと気づきまし

出す英語のことわざに Take time by the forelock というものがあります。時間には前髪で捕まえる、という意味ですね。おそらくこの言葉のもとになったのは

何かよくないことが結果的に起こったとしても「運がありませんでした」と開き直るのではなく「社会の変化を理解してそれに対応する能力がありませんでした」と自分を恥じる、とマキャベリは言

いたかったんでしょう。これは何が起こっても他人のせいにはできない、ということでもあります。

せんが、姿勢のようなものでもあるので、ある決意さえあればそれほど難しくはないような気がします。それにそういう

Take time by the forelock

ウイルスを身に付けよう

大学の4年間をやりなおすことはできないからこそ、そのあいだにこういう能力としてのウイルスを身に付けてください。むずかしそうに感じるかもしれませんが、

う姿勢をもっていたほうが楽しい時間にもなるはずです。

それでは4年間の大学生活、楽しんでください。



私の抱負



新入生代表

国際文化学科 小林 紗也

本日は私たち新入生のために、このような素晴らしい入学式を挙行していただき、誠にありがとうございます。また、数々の激励のお言葉や、両親をはじめ私たちを

支えてくださった方々に、心より御礼申し上げます。

新たな出会いを求め成長目指す

は、言語力だけでなく、互いを理解し合うことが必要となります。

また、異文化について知るためには、自国の文化についてもよく知る必要があります。自分たちの文化をしっかりと

りと理解できていれば、異文化を尊重しながら、より深く理解することができます。

私たちはこれから過ごしていく時間の中で、自分の興味・関心を追求し、たく

さんの経験を積んでいくことでしょう。学問においてはさることながら、新たな環境で、今まで出会ったことのない人と過ごす日々は、私たちが人間的な面でも成長させてくれるはずです。

新潟国際情報大学での4年間を有意義なものにするために、常に向上心

を持ち、謙虚さを忘れず、経験豊富な先生方から多くのことを学びながら、日々成長し続けることをお誓いし、新入生代表の抱負とさせていただきます。

暖かな春の訪れとともに、私たちは新潟国際情報大学の入学の日を迎えることができました。

現在、グローバル化が進み、世界中の人々とながらる機会が増えています。円滑なコミュニケーションを図るために

歓迎のことば



在学生代表 学友会長
国際文化学科 中原 佑那

新入生の皆さん、この度はご入学、誠にありがとうございます。そしてここまで支えてこられたご家族、ご親族の皆さまに

他者を知り学びを深め行動しよう

も、心よりお祝い申し上げます。在学生を代表し、皆さんに歓迎の意を表したいと思えます。

さて、新入生の皆さん、今ど



のようなお気持ちでしょうか。入学できて嬉しい、大学生活が楽しみ、友達ができるか不安、講義についていけるか心配、いろいろあると思います。もしかすると、本当はこの大学に来たわけじゃなかった、という人もいるかもしれません。ですが、この大学は皆さんのそういった気持ちを良い意味で裏切ってくれると思います。

規模の大きな大学とは違い、他学年の学生や、教授との距離も近く、多くの人とコミュニケーション

ーションを取れる環境にあるからこそ、得られるものがあると思います。そのためには、積極的に他者を知ろうとする姿勢や、自分の考えを持ち、行動す

ることが大切です。

今こんなことを言われても、よく分からない、という人が多くいかもしれません。しかし、大学生活を送る中で、きっと分かる日が来るはずです。この大学の環境を最大限、自らの学びと成長に活かしていってください。

私を含めて、多くの先輩たちが皆さんと会えるのを心待ちにしていました。これから、この大学の学生として、共に大学を盛り上げていけたら嬉しいです。ぜひ、サークルやクラブ活動

にも参加してみてください。

この大学4年間で皆さんにとって有意義なものとなることを願い、歓迎の言葉とさせていただきます。

祝電

順不同

日本私立大学協会 会長 小原 芳明 様
新潟県 県知事 花角 英世 様
新潟商工会議所 会頭 福田 勝之 様
セコム上信越株式会社
代表取締役会長 野沢 慎吾 様
株式会社ホンダモビリティ北関東
代表取締役社長 高倉 成之 様

フェアトレード大学認定記念事業

2024年11月に本学がフェアトレード大学（以下FT大学）に認定されたことを受け、本学のフェアトレード推進団体「NUIS FT」が企画したFT大学認定記念事業が、1月24日に本校みずぎ野キャンパスで開催されました。

悲願達成 あふれる喜び

初代副代表からもお祝いメッセージ

今回の認定は、地域社会におけるリーダーシップの象徴であり、次世代に先駆的な役割を果たすことにつながると思えます。認定を機に、今後のさらなる活動を心より応援しております。

際協力の実践を学びながらフェアトレードの普及活動を行ってききました。当時は、紅翔祭での物品販売などを通して普及活動をしていましたが、今日ではサステナビリティ（持続可能性）の分野は私たちの生活に不可欠なものとなっています。

■内藤愛香さんからのメッセージ
FT大学の認定、おめでとうございます。NUIS FTは、2017年度に国際学部3年山田ゼミ生により設立され、国



巻高校と連携協定

した。
具体的な活動としては、

本学と県立巻高等学校は、3月14日に高校と大学が連携する「高大連携協定」を締結しました。協定の目的は、相互の教育活動の交流を通して連携を強化することにより、さらに魅力ある大学教育および高等学校教育を実現していくことです。

国際化・情報化見据えた授業展開 教職員の合同研修・研究も

巻高校の「総合的な探究の時間」の見直しに伴い、本学との連携授業を実施すること、生徒の探究活動をより一層深めます。本学としては、本学の強みである国際社会を視野に入れながら地域で活躍できる人材の育成や、情報社会の担い手となる人材育成の教育を実践し、巻高校の生徒のリーダーシップや問題解決能力の育成に努めます。

両校は電車の最寄り駅が隣接し学生や生徒が活発に交流できるため、施設を共同利用して密接な活動が実現できます。

教職員の連携活動としては、進路指導、入学者選抜の改善、さらに教育・研究についての情報交換や交流等の合同研修を行います。また、連携活動を協議する場を定期的に設け、常に見直しを行っていきます。

両校にとっては初めての高大連携協定ですが、相互の協力のもとで地域密着型の新しい連携活動を実践し、地域の発展につながる成果を上げることが目指します。

(企画推進課)



新潟市里潟ガイド

2025年2月9日に行われた新潟市主催のシンポジウム「『国際湿地都市NIIIGATA』のこれからを『デザイン』する」において、澤口ゼミ4年の赤井田美月さん、河内天良さん、古川悠さんが、中原八一新潟市長から「新潟市里潟ガイド」の認定証を授与されました。

澤口ゼミ生3人に認定証授与

里潟ガイドは、2022年11月にスイスのジュネーブで行われたラムサール条約第14回締約国会議(COP14)で、新潟市



寸劇の一コマ

湿地環境保全に期待高まる

新潟市として初の里潟ガイドの誕生で、その中に本学の学生3人が含まれるというのはたいへん快挙です。ラムサール条約湿地都市認証は、国際湿地都市としてのブランド化、湿地の保全と賢明な利用の推進を図ることを目的とした制度です。里潟

ガイドには単なる潟の案内役ではなく、潟のインタープリターとしての活動を通じて、この目的を達成していくことが期待されています。その意味では、里潟ガイドは国際湿地都市NIIIGATAを担う中心的な存在と言っても過言ではありません。

赤井田、河内、古川さんの今後の活躍を大いに期待したいと思います。(国際文化学科教授 澤口晋一)

学内合同企業説明会

2026年3月卒業予定者を対象とした学内合同企業説明会が3月6、7日に、本校みずき野キャンパス体育館で開催され、2日間で141の企業・団体が参加しました。

2日間で141企業・団体が参加

本説明会では企業ごとの特色や募集予定についての説明が行われ、参加した学生らは各企業の人事担当者の話に熱心に耳を傾け、早期の内定獲得に向けて活動意欲を高めていました。

参加企業の中には、実際に働く本学卒業生の姿を紹介する企業もあり、学生たちは親近感を持ちながら話を聞いていました。普段は得られない先輩たちの生の声が聞ける、有意義な時間となりました。参加した学生からは、「選考を受けてみたい企業に出会うことができ



(キャリア支援課)



育成講座の一コマ

5カ国5大学へ28人が参加

アメリカ

私たちは昨年の8月下旬から12月中旬までの約4か月間、アメリカのセントラル・ミズーリ大学に留学しました。

私が留学した目的は、英語での積極的なコミュニケーション能力を身につけることと、異文化に触れて視野を広げることでした。

私は人と話すことが好きですが、言語が異なる海外の人と話すとなると、緊張や不安で自信をもって話せなくなることがありました。そこで、留学中はこの課題を克服するために、大学のイベントやパーティーに積極的に参加し、施設に行つて現地でできた友だちと英語でたくさん会話をするようにしました。

交流を通して視野広がる

で調べたりして、できるだけ早く覚えて会話の中で使うように心がけた。

国際文化学科3年

武藤 奈々花

しかし、初めの頃は自分が伝えたいことを上手く伝えられずに苦労した日もありました。知らない単語や文法が出てきたときは、ノートに書き留めたり、携帯

ました。私の英語が拙くても最後まで話を聞いてくれた友だちには、とても感謝しています。

また、休暇が何度かあったので、様々な場所を訪れ、日本とは異なる環境や文化に触れるようにしました。現地の人と交流する中で、英語を使う機会も増え、英語で話すことに対しての緊張が減っただけでなく、新しい価値観や考え方を知り、

緒に学びました。教科書を使わず、グループでディスカッションをしながら学ぶスタイルで、正しい文法よりも「まずは自分の言葉で伝えること」が大切にされていました。最初は英語で話すことに不安に感じる人が多いと思います。私もその一人でしたが、シンプルな単語やフレーズを組み合わせるだけでも、意外と通じることが分かり、あまり難しく考えずに話してみようという気持ちになりました。

留学を通して、英語は完璧ではなくとも「伝えようとする姿勢」が大切だと学びました。そして、実際に海外で生活し、交流によって感じ取れたリアルな情報は学習のモチベーションにもなりました。

情報システム学科3年 増井 紗音

大切なのは伝える姿勢

最後に支援をしてくださった先生、学務課の方々、本当にありがとうございました。また一緒に留学に参加したメンバーにも感謝を伝えたいです。慣れない環境の中、最後まで乗り越えることができたのは皆のおかげだと思います。とても楽しく、かけがえのない有意義な経験でした。



ISO (国際学生協会) のホームカミングパレード

私には、家族はジェスチャーを交えたり、ゆっくり話してくれたり、さまざまな方法で寄り添ってくれました。一緒に犬の散歩をしたり、映画を見たりすることがとても良い思い出です。またカナダは多民族国家なので、英語のアクセントが人によって違い、聞き取ることが難しい場面もありましたが、それこそがリアルな英語圏の環境なんだと感じました。

恒例の「夏期セミナー・派遣留学」が令和6年度も計画通り実施され、5カ国5大学へ合計28人が派遣されました。昨年8月4日出発のカナダコースから、3月1日に帰国した韓国コースまで、最長5か月にわたる貴重な留学体験を寄せてもらいました。

大学では、他の県や国から来た留学生と一

ラトビア



ホストファミリーとトリックアート体験 (左端が増井さん)

私は8月末から約4か月間、ロシア語が公用語とされているラトビアにあるダウガピリス大学に留学しました。短い時間でしたが、言語や文化を学ぶことができたことで、人として成長することができた良い機会だったと思います。

日本ではロシア語のみで進められる授業を受けたことがなかったため、最初は特にリスニングに苦しみ、慣れるまで少し時間がかかりました。それでも毎日授業の予習復習を繰り返すことで、徐々に知っている単語や表現が増えていき、授業についていくことができるようになりました。また、アメリカ、トルコ、スウェーデンなど様々な国から来たロシア語を学んでいる学生たちや、同じ寮で暮らす学生



終業式の日に先生とクラスの皆様
(右から2番目が加藤さん)

中国
私は昨年の9月から今年の1月までの4力間、中国・上海にある華東師範大学に留学してきました。中国語コースは1人で参加しました。華東師範大学での留学プログラムには様々な国からたくさんの方々が参加しています。クラスの中にはロシア、韓国、ベトナム、ウズベキ



ダウガフピルス広場(左端が藤田さん)

たちと交流し、ロシアやラトビア以外の国の文化を学ぶことが出来ました。生まれ育った環境の異なる相手の考え方や価値観を受け入れ、尊重するということはどういうことなのか、考えさせられました。

予習復習で会話楽しむ

大切さを改めて感じるとも

国際文化学科3年

藤田 友鈴

今回の留学を通じて、自分なりに努力することや新しい環境に挑戦することの大切さを改めて感じるとも。国際文化学科3年 藤田 友鈴

韓国

私たちは昨年の9月から約5力月間、韓国の慶熙(キョンヒ)大学に留学しました。最初は不安も多かったのですが、韓国語の学習だけでなく様々な国の学生と交流し、たくさんの方々の貴重な経験がすることが出来ました。

慶熙大学の国際教育院では毎日韓国語の授業を受けました。最初は苦労することもありましたが、先生もゆ

語学が結ぶ新たな出会い

つくりと話してくれて、クラスメイトと助け合いながら意思疎通をし、勉強を続けるうちに少しずつ会話がスムーズにできるようになりました。韓国語に慣れてくると会話をするのも楽しくなりました。日常生活でも韓国語を使用する場面が多く自然と語学力が向上しました。

国際文化学科3年 小林 結里

国際文化学科3年

小林 結里

この留学経験を活かし、今後も韓国語力の向上に向けて努力していきたいと思っています。

国際色あふれる留学生

物を売っている屋

現地の人が多かったのが驚きでした。4力月という短い間でしたが、中国や様々な国の人たちと交流し文化を学び、貴重な経験をたくさんしました。最後に、留学に携わってくださった先生方、学務課の方々本当にありがとうございました。

国際文化学科3年 加藤 愛莉

ハロウィンやクリスマスなどにいろいろな

文化を学ぶことが出来ました。上海文化考察レポートを書くために上海にある観光地や歴史ある場所に行きま

文化を学ぶことが出来ました。上海文化考察レポートを書くために上海にある観光地や歴史ある場所に行きま



秋学期クラスメイトたちと
(上段右から2番目が小林さん)

卒業にあたって

大学生活を振り返ると、印象深いのは留学と国際交流ファシリテーターの活動です。

国際交流で異文化学

国際文化学科 井上 拓海

違いを学び、自分が学んだ言語でコミュニケーションがとれる喜びを感じました。また、一人で留学したことで、自分と向き合っている大切な時間を過ごすことができました。

話して考えました。

特に2024年度は今までで一番本気度と完成度が高く、チームやファシリテーター全体のつながりも深かったため、内容に満足し

ファシリテーターの活動では、地球温暖化や異文化理解など、国際的な問題をチームで試行錯誤しながらワークショップを企画しました。その過程では、参加者に何を考えてほしいか、そのために何を伝えるべきかを対



留学先で出会った友人たちと

て楽しく活動を終えることができました。メンバーには本当に感謝しています。授業で学べることに上にも貴重な経験をすることができました。

地域の魅力発信に尽力

経営学科 鹿野 菜々香

私の大学生活は、新たな挑戦と地域活性化に尽力した4年間でし

す。

では、新潟市の国道の起終点の日本一多い点に注目し、新潟の魅力を広めるためにオンラインまち歩きやPR案を作成しました。学会発表や市長への提言も行い、新潟の国道への関心を高めることができたと思

感じていま

に心より感謝申し上げます。また、共に苦難を乗り越えたゼミ生や後輩の活躍を心から期待しています。この経験を活かし、進学先でも精進していきたいと思



ふるさと納税プロジェクトの取り組みを市長に報告(前列右端が鹿野さん)

想定外だったDJ挑戦

情報システム学科 頓所 亜夢路

私は4年間の大学生活で、「たくさん楽しませてもらえた」と感じて

心を持って挑戦した結果、周囲の人たちが温かく応えてくれたおかげだと思

います。

その過程で新たな人とのつながりが生まれ、気づけばDJに挑戦する機会にも恵まれ、その時は自分でも驚きました。

たり、旅行をしたり、ゲームをしたり、ときにはふざけ合ったりした時間は、かけがえのない思い出です。

今まで想像もしなかった世界に触れ、想像以上に多くの経験をすることができました。この4年間で得たものは数え切れないほどで



ゼミ旅行で行った佐渡のフェリーで

29人にJABEE修了証書授与



日本技術者教育認定機構(JABEE)に認定されている情報システム学科の「情報システム技術プログラム」の修了証書授与式が卒業式内で執り行われ、29名の学生に修了証書が授与されました。

JABEEの認定基準は国際的な技術者教育認定制度に準拠しており、修了生は世界に通用する教育を受けた技術者として認められます。また、国家資格である技術士の第1次試験が免除される優遇措置を受けることができます。

卒業後は、修了生・卒業生・教員が集う「交流会」をJABEE委員会が毎年開催しています。ぜひ参加し、多様な業種間交流や自己研さんの場として活用していただきたいと思います。

(情報システム学科 准教授 河原 和好)

佐々木 桐子(経営学科・准教授)
・(2025年3月13日)「離散系シミュレーションを用いた道路ネットワークモデルの構築」日本シミュレーション学会 多次元移動通信網研究会(新潟大学)

謝 凱雯(経営学科・教授)
・(2025年2月22日)「台湾半導体産業の変容と牽引力」中央大学経済研究所(中央大学)

3) 競争的資金獲得研究

今井 裕紀(経営学科・講師)
・(2025年4月より新規〜2029年3月) 令和7年度科学研究費助成事業若手研究「日本におけるアンダーエンプロイメントの研究: 労働市場の二重構造に着目して」研究代表者

佐藤 泰子(国際文化学科・講師)
・(2025年4月より新規〜2026年3月) 2025年度古泉財団研究費助成金「新潟の無形文化財としての酒造りと食文化を活用したインバウンド観光の可能性と展望」研究代表者: 佐藤広明(国際学部国際文化学科4年生) 研究分担者: 佐藤泰子

4) 委員・社会的活動・記事・その他

今井 裕紀(経営学科・講師)
・(2025年2月18日) 新潟県トラック協会新潟支部経営者セミナー「エッセンシャルワークとモチベーション: やりがいのある職務の設計」(ホテルグロウパルビュー 新潟)

内田 亨(経営学科・教授)
・(2024年12月7日) 鹿野菜々香、内田亨「陸上養殖ビジネスモデル」令和6年度 地域活動・学生発表交流会ポスターセッション

佐藤 泰子(国際文化学科・講師)
・(2024年10月30日〜2025年2月20日) 弥彦村教育委員会連携事業「弥彦中学校の外国語授業をサポート〜留学生と英語で地域の魅力を発信」(弥彦小学校・中学校)

山田 裕史(国際文化学科・教授)
・(2025年2月14日) 「東奥日報」「静岡新聞」「神戸新聞」「愛媛新聞」「山陽新聞」「日本海新聞」「大分合同新聞」「沖縄タイムス」など「第解放で前首相に謝罪、『アドバイザー』に 民主派の在日カンボジア男性、懐柔交え抑圧」(共同通信社配信記事)にコメント掲載
・(2025年2月25日) 「読売新聞」朝刊「強権政治のカンボジアで野党が連携拡大模索…選挙での排除時、他党からの出馬狙う」にコメント掲載

卒業生答辞



卒業生代表 国際文化学科
小林 蒼衣

厳しい冬の寒さも和らぎ、春の光が温かく差し込む季節となりました。

本日は、教職員をはじめ、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席のもと、私たちのためにこのような盛大な卒業式を挙行していただき、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

4年前、私たちは期待と不安を胸に、大学生活の第一歩を踏み出しました。当時、世界は

コロナ禍という厳しい状況にあ

壁を乗り越え成長を実感

ここまで歩んでこれたのも、私たちを支えてくださったすべての方々のおかげです。温かいご指導とサポートをしてくださった教職員の皆様、ともに学び、笑ひ、かけがえのない時間を過ごしてくれた仲間、そして精神的にも、経済的にも支えてくれた家族に、心から感謝いたします。本当にありがとうございます。

大学生生活がどのように進んでいくのか、何を成し遂げるべきか、先が見えない不安な気持ちでいっぱいでした。それでも、多くの出会いや支えを受けながら、私たちは一步一步、確かな成長を遂げてきました。この4年間で得たすべての経験は、私たちにとってかけがえのない宝物であり、心から感謝の気持ちでいっぱいです。

大学生活を振り返ってみると、この4年間は、私にとって挑戦と成長の連続でした。ゼミでの学び、資格取得に向けての努力、外国クルーズ船などのボランティア活動、副言語として中国語に挑戦したこと、これらの挑戦が私の視野を広げ、深い学びを与えてくれました。時には思い通りにいかないこともありまし

が、それらの経験が私を成長させ、今の私をかたち作る力となったと実感しています。

その中でも、特に私の成長を大きく促したのは、留学の経験です。入学当初から「英語を学びたい」という強い思いがあり、派遣留学のプログラムに参加することを決意しました。異国の地での生活は想像以上に厳しく、言語の壁や文化の違いに何度も苦しみましたが、それらを乗り越える中で、私は大きな成長を実感しました。最初はうまくコミュニケーションを取れなかったこともありましたが、自分を信じて乗り越えたことで、これから何があっても挑戦し続ける強い意志を持てるようになりました。

この経験を通じて、語学力だけでなく、異なる文化や価値観を持つ人々と出会い、互いに理解し合う大切さを学びました。この経験を糧に、これからもどんな困難にも前向きに立ち向かい、さらなる成長を目指す。

これから私たちは、それぞれの道を歩みますが、この大学で得た知識と経験を胸に、社会に貢献できるよう、どんな困難にも前向きに挑戦し続けます。最後にになりましたが、新潟国際情報大学の一層のご発展と、皆様の健康とご活躍を心よりお祈り申し上げ、卒業生を代表してお礼とお別れのご挨拶とさせていただきます。

退職教員あいさつ



在職中は、多くの先生方、職員の皆様

日々充実した時間

情報システム学科准教授 中田 豊久

に支えられ、心より感謝申し上げます。温かいご指導とご協力のおかげで、日々

夏に研究室から見える景色は一面が黄金色で、着任した2019年後期の気持ち

した。新潟の皆様には、見慣れた四季折々の光

心躍る四季の風景

国際文化学科准教授 堀川 祐里

景も私にとつては毎年心躍るものご健康を心よりお祈り致します。



祝電

順不同

日本私立大学協会	会長	小原 芳明 様
新潟県	県知事	花角 英世 様
新潟商工会議所	会頭	福田 勝之 様
エイチアールティニューオータニ株式会社	執行役員 総支配人	荒木 淳二 様
株式会社NS-コンピュータサービス	代表取締役社長	佐々木 修 様
岡三にいかた証券株式会社	代表取締役社長	江越 誠 様
システム・アナライズ株式会社	代表取締役	阿部 康之 様
株式会社スズキ自販新潟	代表取締役社長	鮎澤 秀典 様
スズキ新潟販売株式会社	代表取締役社長	松山 明裕 様
セコム上信越株式会社	代表取締役会長	野沢 慎吾 様
株式会社大光銀行	取締役頭取	川合 昌一 様
株式会社電子工学センター	代表取締役	中村 義治 様
新潟総合警備保障株式会社	代表取締役社長	廣田 幹人 様
株式会社ホンダモビリティ北関東	代表取締役社長	高倉 成之 様

教員の活動 (本人申告による)

1) 研究論文・図書

- 井堂 有子(国際文化学科・教授)
・(2025年2月) 巻頭言「『武器化』される相互依存、脅かされる命と尊厳―特集にあたって―」『アジア・アフリカ研究』アジア・アフリカ研究所 第65巻第1号(通巻455号)(1~2頁)
- 今井 裕紀(経営学科・講師)
・(2025年3月) 渡辺直登 "Does a western-born youth mentoring program function in Japan's cultural context?: A three-wave study." Bulletin of Aichi Shukutoku University, Faculty of Global Communication Vol.9(1-18)
- 謝 凱雯(経営学科・教授)
・(2025年3月) 若林悦子「インターンシップにおける効果的な役割の考察 ―燕三条地域の事例をもとに―」『工学教育』日本工学教育協会 第73巻第2号
- 山田 裕史(国際文化学科・教授)
・(2025年3月)「1980-1989年のカンボジア：内戦と国際的孤立のなかでの国家再建」アジア経済研究所編『アジア動向年報1980-1989：カンボジア編』日本貿易振興機構アジア経済研究所(1~6頁)

2) 学会・研究会・講演等

- 井堂 有子(国際文化学科・教授)
・(2024年7月20日・25日、8月2日) オンライン連続ワークショップ(イスラエル、イエメン、ガザ)全3回、企画・進行) 2024年度「有事と食糧」研究会(オンライン)
・(2024年12月8日) "Re-examining One Year of the Black Sea Grain Initiative and Its Impacts on the Middle East and North Africa" 第15回アジア中東学会(AFMA) 国際会議(同志社大学)
- 梅原 英一(情報システム学科・教授)
・(2024年12月15日~18日) "ForumPFN: Online Forum Post Fusion Network for Volatility Index Movement Prediction" 2024 IEEE International Conference on Big Data (Washington, DC, USA)
- 區 建英(国際文化学科・教授)
・(2024年11月25日~27日)「厳復思想における『合群』と自由」国際論壇「厳復思想と中華文化」(香港理工大学)

令和6年度

卒業式

学長式辞



新潟国際情報大学
学長 越智 敏夫

が後悔の度合いを強くしている可能性はあると思います。

でも大学を卒業するときに感じるこの後悔という観念はおそらくは世界中の大学を卒業する人たちに共通する感覚だと思います。だから安心していいということではないのですが、でもこの後悔ということについて考えてみたいんですね。

結論みたいなことを最初に言うと、勉強してないと後悔するのは勉強したからこそだということです。勉強してない人は後悔さえないと思います。

勉強というルールに乗っかっているわけではありませんが、でも皆さんはその何かには乗っかってしまっているの、勉強するということについて何らかのことは知ってしまったはず。そしてそ

ん。

私たちがつくっている社会は問題が多くて、複雑にできています。問題が多いというのは、本来のあるべき姿と現実がずれているということでもあります。たとえば人間は生きていくために働いてい

るはずなのに、過労死する人がいます。幸せに生きていくために仕事をしているはずなのに、なぜそこで人間は不幸にならないといけないのか。カール・マルクスはこれに対して独特な答えを用意しましたが、これは実感として誰でももつ疑問です。

またそうした難しい問題を考えるにはそれなりの方法が必要になります。逆転している社会だからこそ、それを根本的に考える方法はそんなに簡単なものにはなりません。難しい問題ですが、大学というのそういう根本的な方法を教員と学生が一緒に考える場所のほすです。ですから皆さんが「もっと勉強しとけばよかった」と後悔していると感じているの

「後悔」の感覚を持続せよ！

孤高の存在として生きてほしい

ご卒業、おめでとうございます。でも皆さんは正確にはまだ10日間ほどは大学生生活が残っています。その期間はまだ大学生ではあるわけですが、おそらく皆さんはすでに後悔し始めているはず。 「もっと勉強しておけばよかった」と思っていないですか。 4年間なんてあっという間です。また皆さんの4年間はコロナ禍とも重なったので、特に1、2年生のころは何が何やらわからないまま時間が過ぎて行ったと思います。ですから他の年度の卒業生よりも大学の4年間でいっそう短く感じたかもしれません。そのこと

れは一生つくづくものです。それがどういうものか、説明するのは難しいとは思いますが、でもこれから皆さんが出て行く社会の特性を考えると、その社会について考える方法のようなものかもしれません

であれば、それはその根本的な方法に似たことの証明のようなものだと思います。 その方法に触れた者は、今後、社会について考えるときに簡単には答えを出せ

ないはず。問題は複雑で解答も簡単には見つからないからです。したがってそういう人々はさまざまな問題に対して反射的に反応するのではなく、ワンクッションおいてから考えるようになりま。それは他人から見たら、のろまな人間に見えるかもしれませんが、あるいはただの理屈っぽい嫌な人間に見えるかもしれません。

でもそれは大事なことです。大学を出た以上、のろまな理屈っぽい人間として生きて行くことが運命づけられているのです。動物のように反射的に動くようなクズみたいな人たちからは嫌われても何の問題ありません。孤高の存在として生きてください。

そこさえわかっていればあとは楽です。人に何を言われても自分は複雑な社会について考える方法を探索しているん



だと思えば楽です。もう少し正確にいうと、その方法を大学で学んでいたけれど、まだまだ途中の段階で、理解も不十分だった、と。これが皆さんが今もっているであろう後悔の意味です。

ですから、この後悔の感覚さえ持続で

祝 辞



学校法人 新潟平成学院
理事長 佐々木 辰弥

卒業生の皆さん、そしてご参列いただきましたご家族の皆様、誠にありがとうございます。本学の運営母体であります学校法人新潟平成学院の佐々木と申します。

今日ここに、皆さんの晴れがましい表情を見ていると、これまでの楽しかったこと、苦しかったこと、すべてが今日の、この輝かしい日に繋がっているのだと心から嬉しく思います。

今日は、中原新潟市長さん、本法人の役員、父母会、同窓会、および町内会役員の方々はじめ就職等でお世話になりました企業の役員の方々にもお祝いにお出でいただきました。大変ありがとうございました。

できれば、あとは生きていくだけで大丈夫です。とにかく死ななければ楽しく生きていきます。生きているだけで十分です。少々嫌なことがあっても、生きていけば何かいいこともあるし、楽しいこともあります。

います。

本学は、創設者である小沢辰男先生の「郷土の発展は人づくりから」という想いの下、新潟市はじめ新潟県、自治体、企業・団体の多くから補助金や寄付金をいただき、31年前平成6年に開学しました。

当時は、皆さんも耳にしたことがあるかと思いますが、阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件など、日本社会を揺るがす出来事が相次いだ時代でした。最近の十数年を振り返っても、東日本大震災や豪雨災害、コロナ禍、能登半島地震は皆さ

卒業後もたまにはその生きている顔を大学に見せに来てください。そうしてくると僕らも喜びます。その点についてはここにいる全教職員が同意するはずで、本日はご卒業、おめでとうございました。

れ、何が正しくて、何が間違っているのか、容易に判断できない時代になりました。しかし、どんな時代にあっても、ルールと秩序の下、自身の頭で考え、判断することこそが羅針盤となり、分裂・分断を抑え、未来を切り拓く力ギとなるのです。

これから新たな道を歩まれる皆さんにとって卒業というのの一つの到達点であり、同時に目的に向けたスタートでもあります。新たな社会は、皆さんが学生生活で感じていたよりも厳しいものかもしれませんが、理不尽であつたり、不平等、

大学4年間は人生の礎

理性と知性で未来を切り拓け！

んの記憶にも新しいことでしょう。災害大国と言われる日本において、未曾有の災害を経験し、社会全体に不安が広がる中、それでも人々は、助け合い、未来に向けて力強く歩み、復興を成し遂げてきました。

しかし今、世界は更に複雑化し、変化のスピードは加速しています。情報が溢

不公平なことも多いことでしょう。福沢諭吉は「学問ノススメ」の中で、「自由は不自由の中にあり」と説いています。自由には、責任と義務が伴います。社会で生きるということは、様々な制約や困難に直面するということです。皆さんがこれまでの4年間で培ってきた「考え、判断する能力」すなわち「理性と知性」



を総動員し、それぞれの未来を切り拓き、社会に貢献していくことを心掛けてください。

新潟国際情報大学も開学からこれまでの30年を振り返り、新たな30年に向けて、皆さんの母校として、恥ずかしくないよう、更なる発展を目指し、大学改革に努めてまいります。どうぞ皆さん、卒業後も折に触れ、故郷新潟国際情報大学を訪ねてください。

最後になりますが、皆さんがこの大学で過ごした時間が、これからの人生の礎となることを願い、併せて健康で希望に満ちた「感性豊かな」人生を歩まれるよう心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉と致します。

292人 世界の海へ希望の船出

令和6年度卒業式

令和6年度の卒業式(第28回)が3月21日、新潟市中央区の新潟市民芸術文化会館(りゅーとぴあ)で行われました。入学当初のコロナ禍を乗り越えて勉学に励んできた292人(国際文化学科114人、経営学科99人、情報システム学科79人)が、学窓を巣立ち、社会への第一歩を踏み出しました。

式典では卒業生1人ひとり名前を読み上げられて起立し、学科代表にそれぞれ学位記が授与されました。越智敏夫学長は「皆さんはもともと勉強しておけばよかったと後悔し始めていると思いますが、後悔は勉強したからこそ感じる観念。その後悔の感覚を持続できれば、あとは生きているだけで大丈夫です」と激励し、「孤高の存在として生きてください」と呼びかけました。

笑顔で学窓巣立つ

卒業生特別表彰に続き、卒業生を代表して国際文化学科の小林蒼衣さんが「大学で得た知識と経験を胸に、社会に貢献できるように、どんな困難にも前向きに挑戦し続けます」と答辞を述べました。

また本年度から情報システム学科のJABEE修了者への修了証書授与式も卒業式内で行われ、29人に修了証書が授与されました(8面記事参照)。

式典のあとは会場をホテルに移して祝賀会が開かれました。真新しいスーツや晴れ着姿の卒業生たちは、晴れやかな表情で学友や恩師らと乾杯し、互いの門出を祝いつつ別れを惜しんでいました。



第28回までの卒業生は合計8,144人に

年度	国際文化学科	経営学科	情報システム学科	卒業者数
令和6年度(第28回)	114人	100人	81人	295人

※9月卒業生含む



令和6年度 卒業生 特別表彰

課外活動賞

陸上競技部
国際文化学科 霜鳥 仁

短距離走の競技力向上に励み北信越学生陸上競技対抗選手権大会優勝を果たすなど優秀な成績を修めた
また中国語の学修に励み第22回「漢語橋」世界大学生中国語コンテストなどにおいて優秀な成績を修めた

地域交流賞

さまざまな「ふるさと納税返礼品」魅力向上プロジェクト
経営学科 鹿野 菜々香 佐藤 春那 長北 彩里 廣島 璃々子

ふるさと納税を通じて新潟市の魅力を発信するプロジェクトにおいて新潟米に焦点を当てた調査と分析を通じて戦略的な情報発信を展開しその成果が高く評価された
経営学科 阿部 琉聖 清野 拓斗

ふるさと納税を通じて新潟市の魅力を発信するプロジェクトにおいて新潟米に焦点を当てた調査と分析を通じて戦略的な情報発信を展開しその成果が高く評価された
また防災に関するイベント

学長賞(学業成績優秀者)

国際文化学科 小林 蒼衣
経営学科 肥田野 和紗
情報システム学科 田村 柊

の企画や動画制作にも尽力した

8連道おもむきプロジェクト
経営学科 加藤 佑都 鹿野 菜々香

NUS TOURISM PROJECT
国際文化学科 小林 蒼衣 難波 里穂 西潟 有貴

経営学科

新潟の観光の魅力を国内外へ発信する活動に長期にわたって取り組み日本国際観光学会全国大会において継続的に優秀な成績を修めた
また海外クルーズ船の寄港支援として英語の通訳ボランティアやツアー商品の開発に携わるなど地域振興に貢献した

学術賞
国際文化学科 入澤 京香 渡邊 瑠華

韓国語能力試験ならびにハングル能力検定試験において優秀な成績を修めた
国際文化学科 小林 蒼衣 品田 大地

TOEICならびに実用英語技能検定において優秀な成績を修めた